

「問い」が生まれる授業サポートガイド 補完版
 授業改善ツール【単元プランシート】

令和3年度 那覇市様式 学習指導案 1～2ページ

※ 単元についてを 1～2 ページに記載します。

単元プランシート(例)

① 学校で育てたい資質・能力

② 単元目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性

③ 働かせる見方・考え方:

④ 前単元

学習活動(□)と児童生徒の反応(○)	学習を支える教師の働きかけ	評価・他教科

④ 後単元

那覇市様式 第3学年 算数科学習指導案

令和 年 月 日 () 校時 □:□~□:□
 () 学校 年 組 名
 指導者

① 学校で育てたい資質・能力
 仲間と共に考えを広げ深める。【学校デザインシート】から、関連する内容を抜粋して記載する。

② 単元の概要

単元名	あまりのあ
内容のまとまり	第3学年「A 数と計算」(4)「除法」
単元の目標	(1)割り切れない数があること、(2)割り切れない数で割り切れない数があること、(3)割り切れない数で割り切れない数があること。
働かせる見方・考え方	生活や学習に活用しようとしている。
単元で取り上げる言語活動	国語科のみ記載 ※他教科は、表を削除する。

③ 単元について

(1) 児童生徒観

- 単元で身に付けさせたい力に対する実態把握について記載します。
- どこでどのようなつまずき(課題)があるかを分析し、指導案に記載する平立てと運動するように記載します。
- 本単元(題材)の学習に直接かわる児童生徒の実態をできるだけ観点から考察します。
- 音楽、図工・美術については、単元・教材によって、一つの側面に重点化するのか、あるいは他の領域に加えて複数領域にするのかを決めます。
- 主体的に学習に取り組む態度は、教科の好き嫌いではありません。自らの学習状況を把握し、学習の進め方について自行調整するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価します。また、事前調査の結果をそのまま載せただけではなく、日頃の観察を含めて、児童生徒の状況を本単元(題材)の目標に照らして実態を考察します。さらに、レディネステスの結果などから、今までの学習で身に付いている資質・能力を記載します。また、不十分な点についても記載します。

(2) 教材観 ※体育科の場合は、(1)運動の特性(2)子どもから見た動きの楽しさ

- 単元目標と関連させ、本単元の学習課題を明確にして記載します。
- 学習指導要領との関連を示します。
- 単元(題材)の学習内容と、そのわらいを記載します。
- 適切な単元の構成内容であることを記載します。
- 本時の教材分析や教材の魅力(体育については運動の特性)についても記載します。

(3) 指導観

- ねらい適切に開けて、どこで、どのような平立てをするのか、指導のポイントを記載します。
- (1)「児童生徒観」(2)「教材観」を踏まえ、この単元全体・本時の学習内容をどう指導していくかを具体的に記載します。(単元の展開方針、単元の教材構成、順序、学習形態、御に応じた学習指導の視点など)
- 目標に照らしてその実現状況を観点ごとにどのように評価するのかを記載します。

④ 単元の評価規準

知識・技能【知技】	思考・判断・表現【思判表】	主体的に学習に取り組む態度【主体的態度】
① 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について理解している。	① 除法が用いられる場合の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。	① 除法が用いられる場合の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。
② 除数と商が共に一位数である除法の計算が確実に行える。	② 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	② 除法の場面を身の回りから見つけ、除法を用いようとしている。「わり算探し」など
③ 割り切れない場合にあまりを出すことや、あまりは除数より小さいことを理解している。		

④ 前単元 本単元の既習事項となる単元や考え方を明記します。

⑤ 単元の指導と評価の計画(全10時間)

時間	学習活動と児童生徒の反応(◆)	学習を支える教師の働きかけ(□)	【評価項目】(評価方法) <他教科>
1	余りがある場合でも除法を用いてよいことや答の見つけ方を具体物や図などを用いて考える。 ◆このような数や算に、わり切れないのの(用)をどう使うか。	□これまでのわりきれの場合と比較して、問題提示を工夫することで、「除法を用いてよいこと」に気づかせる。 (用)わり切れる、わり切れない。	【・思判表】① (行動観察・ノート分析)
2	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 ◆あまりの表し方を加えたい。	□全体で式まで完成させた後、一人ずつで図や式にまとめ、結びつけさせることで商やあまりの意味を理解させる。 (用)あまり	【・知技】① (ノート分析) <体育>
3	余りと除数の関係を理解する。 ◆順序よく並べることで、あまりの大きさについて説明したい。	□「余り」は除数(わる数)よりも小さくなるという性質について、具体物に分ける操作で理解させる。	【・知技】② (ノート分析)
4	「学習活動」は児童生徒の気づきを明確にします。 ・「児童生徒の反応」は、3つの子供の学びの姿から、問題提示では、児童生徒からどのような「OOたい」という新たな「問い」をどう引き出すか、その「問い」をどのようにつなげるかデザインします。	□「教師の働きかけ」は、児童生徒の気づきや「アウトプット」を引き出す発問、指示、提示、場の設定を「何のために」行うのか意図を明確にします。 ・新出用語等を明確にします。	【・思判表】① (行動観察・ノート分析) <理科>
5			【・知技】② (ノート分析)
6			【・主体的態度】① (ノート分析)
7		◆教科横断的な観点から他教科との関わりがある時間については記載をする。 ・学校によっては、キャリア教育の観点やSDGsの観点で記載することも考えられる。	【・表】② (観察・ノート分析)
8	学習内容の定着を確認し、理解を確実とする。(単元問題)	□	【・知技】①②③ (ノート分析)
	【・】指導に生かす評価、【○】配剤に生かす評価 ・「指導に生かす評価」は、主に努力を要する児童生徒を確認し、その後の指導に生かすためのものとします。 ・「配剤に生かす評価」は、学級全員の児童生徒の評価を、総括の資料にするためのものとします。 参考資料③第3編 ・指導と評価の一体化を図るために「指導に生かす評価」「配剤に生かす評価」をどのタイミング、どの方法で行うかを明確にします。		【・思判表】② (ノート分析) 【・主体的態度】② (ノート分析)

④ 後単元 本単元が既習事項となる次単元などを明記します。

- 【 説明 】
- ①学校で育てたい資質・能力について【学校デザインシート】をもとに記載する。※PPⅡ 学校改善ツール参照
 - ②単元プランシートは、目標について記載するが、指導と評価の一体化を図るために、単元の評価規準について記載する。
 - ③学びの深まりの鍵として、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を明確にすることで、より質の高い深い学びにつなげる。
※国語科においては、「単元で取り上げる言語活動」を簡潔に記載する。
 - ④継続的な指導が行えるように、前後の単元や領域等で、どのような学びをしてきたか、学んだことをどのように生かしていくかを意識して指導の計画を立てる。
 - ⑤「児童生徒の反応」は、3つの子供の学びの姿からデザインする。※PPⅡ参照
「教師の働きかけ」は、何のためにその学習活動を行うのか意図を明確にする。
「指導と評価の一体化」を図るために、評価のタイミングや方法を明確にする。

「問い」が生まれる授業サポートガイド 補完版

授業改善ツール 【授業プランシート】

令和3年度 那覇市様式 学習指導案 3~4ページ

※ 本時の学習指導案についてを 3~4ページに記載します。

授業プランシート(教科名) 月 日 () 年 組

単元名 (/) 授業者:

1 本時のねらい

2 めあて、まとめ、振り返り

(まとめ) (めあて)

(振り返り)

3 本時の展開

4 板書レイ

令和2年度版 授業における基本事項 義務教育課

沖縄県公立学校教員等育成指導 採用・基礎ステージ

支持的風土・学習環境

□ 互いに認め合い、支え合う風土の醸成

□ 学習環境(学習規律、言語環境、教室環境)の充実

授業マネジメント

タイムマネジメント

□ 授業開始・終了時刻の徹底

□ 簡潔な説明と的確な指示

めあて・まとめ・振り返り

□ 身に付けさせたい力を踏まえた「めあて」の設定・提示

□ 「めあて」に正対した「まとめ」「振り返り」の確実な実施

発問

□ 学習のねらいに迫る意図的・計画的な発問

□ 思考を広げ、深める発問の工夫

思考力・判断力・表現力等

□ 課題について自分自身の考えをもつ時間の確保

□ 学習のねらいの達成に向けた交流場面の設定

評価・改善 【R2重点項目】

□ 授業の展開に生かす評価(児童生徒の学習状況の見取り)

□ 指導計画に基づく評価場面の設定と随時評価の確実な実施

板書・ノート、教具

□ 思考を整理し考えを深める構造的な板書・ノート指導

□ 教具・ICT機器の効果的な活用

那覇市様式

6 本時の学習指導案について

(1) 目標

(2) 授業仮説

(3) 展開 (第4時)

学習活動

教師の働きかけ(□) 予想される児童生徒の反応(●)

評価規準 【評価項目】(評価方法)

1 導入()分

2 めあて

3 展開()分

4 振り返り

5 まとめ

6 振り返り

7 板書計画

教科の特性に合わせて「場の設定」や「準備物」等についても記載します。

右記の QRコードから 説明用動画が 視聴できます。

- ⑥教科の特性に合わせて「めあて」に正対した「まとめ」「振り返り」の確実な実施を意識する。
- ⑦評価規準については「概ね満足できる」姿(B評価)を記載する。「十分満足できる」姿(A評価)については記載する必要はないが、しっかりと検討して設定する。
- 作成に当たっては、以下の資料を参考にする。
- 「学習指導要領 解説」(各教科) H29. 7月
 - 「言語活動の充実に関する指導事例集」(各教科) H23. 10月
 - 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』(各教科) R2. 3月
 - 「学習評価の在り方ハンドブック」 R元. 6月
 - 「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」 R2. 3月
 - 『「問い」が生まれる授業サポートガイド』
 - 『「問い」が生まれる授業サポートガイド 補完版 授業改善ツール』